

## 七転八起

## 私

の机の前に、孟宗竹を縦半分に割り達磨の絵を描き、その横に「七転八起」と大きく添え書きされたものが掛けてあります。こ

れは、母が晩年、旅行に出掛けた折の温泉土産です。娘時代は別として、戦前・戦後ずっと苦労してきた母ですが、父の商売も軌道に乗った晩年は、今までの時間を取り戻すかのように、興味のあることや趣味に没頭し、旅行にも精を出していました。

## 旅

の土産は饅頭からお守りまで様々な物がありました。その中には教訓じみたものが書かれた壁掛けなどもありました。今は寝室の壁に飾っていますが、A3判ほどの黒いプラスチック板に、徳川

家康の遺訓「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くがごとし。急ぐべからず。不自由を常と思えば不足なし。ころに望みおこらば困窮したる時を思い出すべし。堪忍は無事長久の基、いかりは敵と思え。勝つ事ばかり知りて、負くること知らざれば害その身にいたる。おのれを責めて人をせむるな。及ばざるは過ぎたるよりまされり」が簡条書きにされ、上部の真ん中に葵の御紋が描かれたものも、母の旅の土産。流石にこれは持って来られず、店から送って貰ったのですが、本体よりも送料の方が高かったのではないかと思います。母の土産ですから無下にも出来ず、申し訳ないのですが、仕方なく飾っているという塩梅でした。しかし、気が付けば、何かに挫けそうになった時などに、この安物のお土産に記されている文言をじっと見ている自分がいたのも事実です。亡き母の思いは、そんなところにあつたのかも知れません。

## 町

中で、オシメでお尻の膨らんだ一歳くらいの子が、ちょこちょこ歩いている姿を見掛けると、可愛くて、つい見入ってしまいま

そんな小さな子は必ずといって良いほど転びます。転んで泣き出す子もいますが、平気な顔で起き上がる子もいます。親が抱きかかえてくれることもあります。小さい時は、頭の方が体よりも大きいので、転びやすいでしょう。成長するにつれ頭と体の大きさのバランスがとれて、人間は転ばなくなります。しかし、人生の中では様々な事で躓き転びます。人生、滑った転んだは日常茶飯事。私も数え切れないほど失敗し挫折しながら今まで生きてきました。

## 教師

師としての来し方を思い返しても、穴があつたら入りたいと思うようなことが沢山あります。人様に自慢できるようなことはほとんど来ませんでした。そして、これからもまた、人生という道程で転びながら起き上がり生きていかなければいけないのだと思っています。ただし、実際に転ぶことは避けなくてはなりません。年をとって骨折したらなかなか回復せず、体も弱って寝たきりになることも多いそうですから。

## 世界

で最も貧しいと言われたウルグアイの大統領ホセ・ムヒカ氏が10月20日、体調のこともあって政界を引退すると発表しました。そのムヒカ氏が、2012年6月に行われた国連「持続可能な開発会議」の折に行ったスピーチに、多くの人達が心を揺さ振られました。今回の政界引退に際して行った演説もまた、SNSなどで拡散されているというニュースを(R2・10・21)朝日新聞の朝刊で読みました。

その中で彼はこう言っています。「若者たちに伝えたい。人生の勝利とは、金を稼ぐことではない。倒れても、何度も立ち上がりやり直すことだ」。若者だけではなく年老いた私にも、この言葉は響きました。

(元青森県立北斗高校校長)